

イノシシの被害を受けにくい園芸作物の選定と被害回避効果			
[要約] シソは、イノシシが好んで採食しない園芸作物として選定でき、防除素材として活用できる可能性が高い。			
農業技術振興センター栽培研究部湖北分場		[実施期間] 平成15年度～18年度	
[部会] 農産	[分野] 多面的機能	[予算区分] 国庫	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

本県の中山間地域ではイノシシによる農作物被害が多発しており、防護柵や捕獲を中心とした対策が講じられているが、多大な労力とコストを要する。

一方、人里側のエサ場価値の低減を総合的に行う観点から、様々な防除技術の開発が切望されている。そこで、イノシシの被害を受けにくい園芸作物を選定するとともに、その被害回避効果について調査し、防除技術の素材としての活用を検討する。

[成果の内容・特徴]

シソは、飼育イノシシの嗜好性が他の香辛野菜に比べて極めて低い(図1)。シソは、年次、場所に関わらず野生イノシシが出没しても被害が認められず、シソ植え付け地への侵入がない(表1、図2、3)。

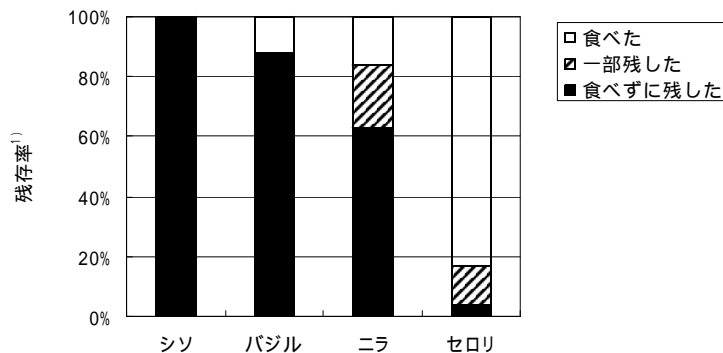
以上の結果より、シソは、イノシシに対する嗜好性が低い作物として選定でき、防除素材として利用できる可能性が高い。

[成果の活用面・留意点]

里地でのイノシシに対する餌場価値を低減させる方策として、その他の対策と併用しながら総合対策を行うことが望ましい。

水田へ侵入したイノシシが心理的に山へ引き返そうとする山際からの適正な栽植距離等、依然として未解明な部分も多いため、具体的な活用法については、今後、さらなる研究が必要である。

[具体的データ]



注1) 空腹状態の4個体に一定量を給餌し、60分後の残存率で示した。

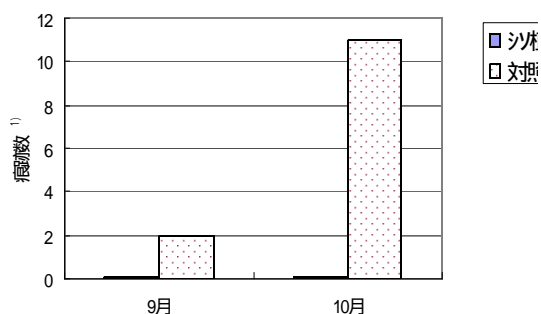
図1 飼育個体における採食試験の結果 (2004年)

表1 年度別イノシシの出没とシソ被害状況

年度	出没回数 ¹⁾	被害の有無
2002年	31	なし
2003年	25	なし
2004年	39	なし

注1) 2002、2003年は5～1月、2004年は8～12月に調査。

注2) 調査地：高月町松尾。



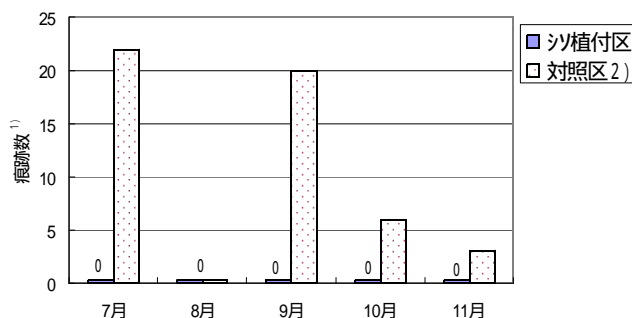
注1) 掘り返し跡を50cm×50cmの枠数で表した。

注2) シソ植付法面内において植付けしていない1m×60m。

注3) シソ植付区を通過した痕跡はなし。

図2 シソ植付け1年目の痕跡状況

(調査地：近江八幡市白王町)



注1) 掘り返し跡を50cm×50cmの枠数で表した。

注2) シソ植付法面の植付外と法面に接する森林内の10m×160m。

注3) シソ植付区を通過した痕跡はなし。

図3 シソ植付け2年目の痕跡状況

(調査地：近江八幡市白王町)

[その他]

・研究課題名

大課題名：農林水産業の持つ多面的機能の評価および増進に関する研究

中課題名：心やすく田園空間の創造と多面的機能の発揮に関する研究開発

小課題名：野生獣（イノシシ）の生態解明と農作物被害防止技術

研究担当者名

：山中成元 (H13～18)、常喜弘充 (H15)、大堀英樹 (H17～18、普及部)

その他特記事項：なし